



学校給食の取り組み状況

市内に学校給食センターは2箇所あり、小・中学校に統一した献立で給食を提供しています。

旭市の学校給食の特徴

子どもたちの食への興味・関心を高められるように、毎月3つのイベント給食を行っています。

●WASHOKUの日

端午の節句の柏もち、十五夜の月見団子のように、季節や年中行事に合わせた料理を取り入れ、子どもたちが四季を感じたり、行事食を知ったりできるようにしています。

●ものがたり給食

図書館司書の協力の下、絵本や教科書の内容を料理で再現し、献立にすることで、本と食の両方へ興味が高められるようにしています。

●千産千消デー

毎月19日を千産千消デーとし、県内や市内産の食材を多く使った給食を提供し、地場産物の良さを伝えています。地産地消に千葉県のをかけて、千葉県では独自に「千産千消」と表現しています。

千葉県産豚レバーを活用した「鉄人給食」

令和3年度から、千葉県食肉公社の協力の下「レバー

食べレバ、鉄人になれるプロジェクト」を始めました。新型コロナの影響により、需要が減少した千葉県産豚レバーを活用することで食品ロスを減らし、子どもたちにもおいしく食べてもらえるようなメニュー開発を行っています。この取り組みは成長期の子どもたちの栄養補給にもつながります。

給食を通して市の養豚業を紹介することで、子どもたちがふるさと旭を愛し、誇りに思うきっかけづくりを目指しています。



豚レバーを使った鉄人給食

小学生向け給食指導資料動画「給食チャンネル」の配布

学校給食センターオリジナルの給食指導資料動画を作成しました。

収録したDVDを小学校へ配布し、給食の時間や授業などで活用しています。



動画「給食チャンネル」のワンシーン

これからも旭市の豊かな食材を活用し、子どもたちの健康づくりに努めていきます。

あさひ輝いた人々

第46回

広い人脈と才覚にあふれた地域の名士

いそむら さだお
磯村 貞雄 (1923~2009年)



貞雄は、飯岡町長、飯岡町商工会長を務めた人物です。大正12(1923)年、飯岡町に生まれ、昭和21(1946)年、23歳の時にでんぶん製造業を開業し、その才覚から事業で成功を収めました。

昭和42(1967)年には44歳で飯岡町議会議員に初当選し、昭和47(1972)年から昭和55(1980)年までは、4代目の飯岡町長として町政に携わり、高潮対策・離岸堤工事などに取り組みました。出張や陳情に飛び回り、行動力と決断力があるリーダーとして、どんな場面でも堂々とした態度で臨みました。国や県からの信頼も厚く、多くの知見や広い人脈などが活躍の源でした。

昭和63(1988)年から平成18(2006)年までの約18年

間の永きにわたり、飯岡町商工会長を務め、商工会の主事業である経営改善普及事業や地域振興事業に積極的に携わりました。また、この間、千葉県商工会連合会の理事を4年、その後、会長を15年務め、千葉県内の経済発展や活性化のために努力しました。平成6(1994)年には勲五等瑞宝章を受章しました。

その実行力から、平成9(1997)年から6年間、全国商工会連合会の理事、平成15(2003)年から3年間、副会長を歴任し、千葉県のみならず全国に活躍の場を広げ、商工会運営と小規模事業者の経営改善に尽くしました。

平成21(2009)年、86歳で亡くなりましたが、晩年まで仕事にその身をささげました。



平成12年に商工会で優良従業員表彰者と記念撮影(前列左から2人目)